

平成30年8月30日

三木市議会
議長 内藤博史様

総務文教常任委員会
委員長 板東聖悟

行政視察報告書

下記のとおり委員会行政視察を実施いたしましたので、会議規則第107条の規定により報告します。

記

1. 参加者

板東聖悟（委員長）、吉田克典（副委員長）、泉 雄太、
堀 元子、古田寛明、中尾司郎、穂積豊彦、内藤博史 計8名

2. 視察内容等

日 時	場 所	内容及び対応者
7月11日 13:00 ～15:30	神奈川県 伊勢原市 (大山小 学校)	<u>ICTを利用した英語教育</u> (対応者) 大山小学校校長 磯部道枝 大山小学校教頭 高橋 操 大山小学校総括教諭 竹林 盛 大山小学校非常勤講師 中村さゆり 大山小学校 (外国語指導助手) シーラ (Shira Shuval) 大山小学校教諭 三竹悟史 大山小学校教諭 川上翔太 教育指導課長 石渡誠一 教育指導課係長 田中美和 教育指導課係長 須永尚世 議会事務局副主幹 林かをり 議会事務局主事 小松真矩
7月12日 9:00 ～11:30	神奈川県 厚木市	<u>マイタウンクラブ</u> (対応者) 情報政策課長 志村正美 情報政策課主幹兼地域情報推進係長 熊坂 修 情報政策課地域情報推進係 熊谷真也 情報政策課地域情報推進係 勝野晶絵 <u>公共施設最適化推進事業</u> (対応者) 行政経営課長 小林宏至 行政経営課行政経営係 秋吉宏二 議会事務局議会総務課 尾上博一

13:00 ～16:15	東京都 町田市	<u>事業別財務諸表</u> (対応者) 財政課長 鎌野崇志 財政課主任 山田雄介 <u>地域のごみ減量</u> (対応者) 環境政策課長 塩澤直崇 環境政策課係長 吉川元直 環境政策課主任 伊藤大二郎 3 R 推進課普及課長 桑原一貴 3 R 推進課推進係長 田中真人 3 R 推進課推進係主任 江原寛政 資源循環課統括係長 滝 秀 議会事務局調査法制係 渡邊祥平
-----------------	------------	--

3. 事前質問

伊勢原市

ICTを利用した英語教育

- 1、ICT教室の機器設置状況
- 2、タブレットの活用状況（台数他）
- 3、話す力・聞く力を育てるための機器活用の工夫
- 4、教職員のICT研修（英語科教員以外も）
- 5、ALTを全英語授業に配置したことによる成果
- 6、区域外就学を認めるための条件について
- 7、地域資源を活用した社会教育の実績とこれからの展開
- 8、歴史や文化の情報発信をどのように行ったことにより、子どもたちはどのように変化していったのか
- 9、インターネットを活用した姉妹校との交流について具体的な活動とこれからの展開

厚木市

マイタウンクラブ

- 1、どのようなHPを目指したのか

公共施設最適化推進事業

- 1、公共施設最適化基本計画について、個別案件毎に計画を策定されているのか
- 2、統廃合による処分についても検討されているのか
- 3、現時点で公共施設の統廃合、長寿命化等の計画はどこまで進められそこに至るまで実施されてきた流れ
- 4、小中学校の適正化の考え方とどのように進められているのか。また、地元や保護者への説明会はどのように行い何回くらい実施されているのか

町田市

事業別財務諸表

- 1、セグメント分析において、特に難しかった点はどこか
- 2、事業別財務諸表の情報を有効に活用できるようにするため、簿記・会計のわかる職員の育成を課題としているが、どのような成果があったか
- 3、新公会計制度を用いる前とその後の職員の作業効率はどのように変化していったのか
- 4、導入前にはどのような無駄があり、それがどのように解消されていたのか具体例

地域のゴミ減量

- 1、ごみ減量化・ごみリサイクルに取り組むようになった経緯
- 2、環境資源部の職員配置状況について
- 3、剪定枝資源化センターについて。また、採算性はどうなっているか
- 4、一般財団法人まちだエコライフ推進公社の役割・設立過程について
- 5、ごみ減量サポーターについて
- 6、町田市のごみの現状について（2020年までに40%の削減目標を掲げているが、その達成状況について）
- 7、今後の課題について

4. 所感

(1) ICTを利用した英語教育（伊勢原市）

文部科学省課程特例校、伊勢原市特色ある教育モデル推進校として、学校の持つ環境、少人数、自然、伝統文化を活かした取組が行われていた。

英語教育では、ALT、専科担当教員、担任の3名体制で役割分担をしながら英語だけでテンポ良く、教育機器も活用してレベルの高い授業が行われていた。なにより生徒自身が英語学習に親しむ事が出来ており、小学生からALTによる英語教育の必要性を感じた。

そういった特色ある教育時間を作るため、総合的な学習の35時間を少人数のきめ細やかな教育を行う事で捻出し実現されていた。

小規模校は統合されていくという考え方は果たして良いのか考えさせられると同時に、小規模校だからこそその利点を活かせることを考える機会となった。

(2) マイタウンクラブ（厚木市）

マイタウンクラブは公共施設の予約システムから始まり、図書館システムとの統合、市内飲食店やサークルの紹介、文化会館のチケット予約、地域SNS、地域の企業を紹介するページもあり地域の活性化に大きく寄与している。

サポート体制として、コンテンツ制作代行や利用者に安心してもらうため、地域SNSやブログの監視活動を行うサポーターズクラブの果たす役割は大きいと感じた。

(3) 公共施設最適化推進事業（厚木市）

厚木市では今後40年間の公共建築物の維持管理費用に対して不足する財源約442億円を解消する目標をたてており、金額で示している点が市民の方々にも一緒に考えてもらう上で分かりやすいと感じた。

また移転により生み出された公共施設跡地の利活用についても、再配置計画ではしっかりと定めており、まちづくりとの関連性も感じられた。

公共施設再配置計画を考えるうえでは市で保全・運営、民間に委任、または売却するなど様々な選択肢がありコンサルタントの力も借りながら作成しておられ、市民のニーズに応えようという姿勢がうかがえた。

(4) 事業別財務諸表（町田市）

事業ごとにコスト管理がなされている事に特徴があり、組織や事業マネジメントに活用し職員の意識改革を促し、決算での評価と予算作成時に市民目線に立った計画がなされていると思った。導入までにはマンパワーが課題となると考えていたがコンピューターシステムさえ出来れば難しくない事も分かった。

また事業別評価シートを公表し、市政運営に関心を持ってもらえるようにダ

イジェスト版冊子を活用し市政懇談会等で市民に説明されている。行政事業を可視化するためにも有効と考える。

(5) 地域のごみ減量（町田市）

ごみ減量アクションプランを掲げ40%削減の目標を設定し、生ゴミ、紙類、事業系、収集後資源化、協働・パートナーシップの5つのターゲットを設定し、その中で重点的な取組を11項目に分け市民の方々にもわかりやすくかつ取り組みやすいように努力されていた。

また、ごみ減量サポーター制度を導入するなど地域住民が中心となって、ごみ減量やリサイクル活動を推進されるなどユニークな取組がされている。